

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム まぶる

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0373000744		
法人名	有限会社ヘルパーはうす		
事業所名	グループホーム まぶる		
所在地	〒028-1333 岩手県下閉伊郡山田町大沢4-38-5		
自己評価作成日	令和3年10月	評価結果市町村受理日	令和3年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入所者それぞれの思いをくみ取りながら、生活リズムに合わせ楽しく過ごせるよう支援を行っている。1日一回は笑いあって過ごせる時間を作るよう意識している。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年11月5日

震災後の平成25年8月に現在地に移転して8年目となるが、「笑いあって、今をまぶる」という明確な運営理念の下、各職員は毎朝理念を唱和し、利用者の笑顔を積極的に引き出すケアの実践に努めている。コロナ禍の影響を受けて、面会機会の減少や外出支援が難しい状況が続いているが、利用者の写真付き広報誌の送付やミニドライブの実施などにより、利用者や家族を笑顔にする取組みを重ねている。立地場所が沢沿いであるため、大雨への備えに留意しており、年6回の避難訓練を実施しているほか、近所の住民から避難時の応援も得られるなど、地域との連携は高く評価される。また、家族や職員へのアンケート実施によって、家族や職員からの意見・要望を汲み取る取組みも継続している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム まぶる

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に全員で理念唱和をし意識の共有に努めている。	「笑いあって今をまぶります」という運営理念は、4年程前に全職員が話し合って作成したものであり、ホール内に掲示するとともに、毎朝の申送りの際に全員で唱和し意識付けが図られている。利用者の笑顔を引き出し、生活を「まぶる(=守る)」ケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響もあり運営推進会議や避難訓練等、以前はできていたつきあいが困難になっている。行事等で演芸や園児が来ることを何より楽しみにしている入所者には可哀そうな状況ではある。	コロナ禍のため、以前のような地域との交流活動は軒並み休止状態となっているが、地域の方々は事業所の良き理解者である。町内会に加入し地域の清掃活動等には職員が参加している。コロナ禍前のように、保育園児との交流や町民芸術祭への参加が出来る環境が早く訪れることを願っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年であれば避難訓練に民生委員や近隣住民への参加をしてもらい、実際に認知症の方と関わる機会を設けている。今年度はコロナ禍もあり交流する機会は減っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を行い、広報を配布すると共に、参加された際には意見を貰い、サービス向上に努めている。	運営推進委員として、地域からは地区長と民生委員が参加しており、地域との連携が図られる体制となっている。会議は、コロナ禍のために今年度は開催できず、各委員には資料を送付して状況をお知らせしている。次回は12月であり、開催する方向で検討している。	事業所の運営において、運営推進委員から意見を伺うことは大変重要な機会であるため、資料送付に止まらずに書面開催の方法により意見・質問を伺うような工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時にはその都度連携をとり情報交換している。また運営推進会議にも参加してもらい、意見・要望を貰い取り入れサービス向上に努めている	日常的に地域包括支援センターの担当者とは連絡や相談でやり取りしており、役場の担当とも入退居やコロナ対応などで連携を図っている。大雨の際には、役場から避難の対応などについて電話で問い合わせがある。生活保護受給の方が入居しているが、担当ケースワーカーの来訪が無いのが気にかかっている。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム まぶる

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け報告している。また定期的に勉強会を行い、共通認識を持ち、拘束をしないケアに努めている。	身体拘束適正化委員会は運営推進会議の開催と併せて開催していたが、コロナ禍のため会議の開催ができず、委員にヒヤリハットの状況や研修等に関する資料を送付して理解いただくようお願いしている。職員研修は定期的に開催している。転倒防止のため、家族に説明し了解を得た上で、夜間に4人が人感センサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、ケアを見直すようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修に参加して勉強する機会を設けている。それを勉強会として行い職員が学ぶようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の不安に感じることや疑問点に対して話し合いをし、必要書類の説明を行ったうえで納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には定期的な面会をしてもらい意見や要望を聞き取りしている。最近ではコロナ禍で面会が少なくなっているが電話でやり取りをし意見要望を聞いている。	家族の多くは毎月の利用料支払いで来所する機会があり、その際に要望等を伺っているほか、声を上げやすいようにすることも含め、生活状況を端的に表す写真付きの広報誌を送付し喜ばれている。家族アンケートを年1回実施し、運動させて欲しいなどの声に直ちに対応している。利用者の半数が言葉で意思を伝えることができ、家族と会いたい等と話す利用者が多くなっている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まぶる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りやミーティングを行い意見交換をし業務の見直しをしている。また個人個人が意見や相談が出来るよういつでも聞く体制を取っている。	職員の意見は、毎朝の朝礼や月1回の職員ミーティング、連絡ノートへの記載等により把握している。コロナ禍に対応した乾燥機や空気清浄機増設の意見があり、具体化している。職員との個人面談は、希望する職員や話を聞いてみたい職員と行なうようにしている。	職員との個人面談については、なるべく年1回程度は実施して、プライベートな事柄を含めて話を聴き、相談に応じる機会とするよう期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の会話や身体面にも目を配り、職員間でのトラブルが起きないように、働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々職員間で問題視することを取り上げ勉強会を行い能力の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍に伴い同業者との交流する機会は皆無に等しいが、できる範囲内で意見交換をし、当施設の質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話を多く持つことで本人の意見を傾聴し安心・信頼が得られる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の不安や要望を聞き取り、不安を取り除けるよう、意見交換をしながら双方のできる事を決めながら関係作りに努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まぶる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心身の状況・意向に応じ家族の要望も視野に入れたサービス対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者の得意分野を活かし、作業等役割を構築し、職員も一緒に行うことで対応な立場で行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と面会や通院等で、連絡は常に密にし、本人の状況・意向を伝え、ともに支えあう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍に伴い外部からの来客は控えているが、併設するグループホームに、昔からの知り合いが入所している方がいるので、その間には行き来し、関係を崩さないようにしている。	コロナ禍のために知人等の来訪がなくなっており、外出機会が減少しているものの、法人が運営する町内のグループホームに入居している知人と往来している利用者もいる。また、町内の訪問理容師が2ヵ月毎に来てくれており新たな馴染みとなっている。時には、ミニドライブで生まれ育った地区を一回りすることも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者同士の関係に配慮しながら、普段座る場所を考え対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族がいつでも来所でき、相談しやすい環境づくりをしている。来所した際には日常的な会話をしたりし関係を切らないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日会話する時間を多く設け、その中で思いや意向を聞き、表情や言葉の強弱等観察し状態の把握に努めている。	半数以上の利用者が言葉で思いや意向を表すことができ、職員は意識的に会話の中から利用者の思いを引き出すように心掛けている。利用者の口から出ることは、昔の話や家族、子どもに関するものが多く、家族から電話してもらってより詳しく聴き出すこともある。言葉で表せない方でも、家族が来所すると良く反応し、表情に喜びを表している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時点で身上書を記入してもらい生活歴の情報を職員間で共有している。また入所後も家族が面会に来た際には入所前の様子を聞きとりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日をどのような状態で過ごしたかを記録に記入し、皮膚状態や食事の摂取状況等申し送りし、状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1度ケアカンファレンス、定期的なモニタリングを行い本人の思い、介護職の思いや情報、家族の考え等考慮し今後予想される様々な状態の変化に留意しプランに反映している。	介護プランはケアマネが作成担当となり、担当職員とともに原案を作成し、職員カンファレンスで検討のうえで決定している。モニタリングは3か月毎に全職員が参加して行われ、プランの見直しは6か月毎としている。状態の変化が見られる場合には、その都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケースファイルを準備し日々の様子通院情報を記入している。特に重要事項は連絡ノートを用い確実に伝達されるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域交流スペースがあり、地域の方が様々な用途で使用できるようになっているが、コロナ禍で近年の活用はない。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まぶる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院・理美容等馴染みの店を使ったり、日人等を把握し、施設外とも接点を持てるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族・本人が希望する医療機関を継続し、家族からの要望も聞きながら受診介助している。受診後は家族にも報告している。	多くの利用者が以前からの町内の診療所をかかりつけ医としているが、宮古市の精神科に通院する方もいる。町内の通院は職員が対応するが、町外への通院は家族対応としている。以前は訪問診療もあったが、現在は行われなくなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護師はおらず、訪問看護もないが、職員が早期発見に気づき、必要時にはかかりつけの病院を受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には書類で情報提供し病院と連携を図っている。また家族とも話をしながら、円滑に物事が運ぶように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期や、緊急時の対応について話し確認している。家族の負担が大きくならぬよう早めに相談し他事業所とも連携を図っている。	入居の際に、重度化した場合の対応について、本人や家族に説明し了解を得ている。以前に協力医師の支援を得て看取りの経験はあるが、現在は協力医を確保ができない状況となり、看取りは行っていない。重度化した場合には入院や老健施設等に移るケースが多くなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	例年は消防に協力してもらいながら、AED講習や心肺蘇生法の講習を受けていたがコロナ禍で要請できず、実施できていないのが現状である。		

事業所名 : グループホーム まぶる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防指導の下、昼夜間想定避難訓練や土砂・火災等の訓練を行い、職員の意識を高めている。地域住民にも声がけし参加を促し協力体制を築いている。	ハザードマップでは浸水や土砂崩れ等の地域に指定されていないが、大雨時には沢の増水と裏山の土砂崩れに注意している。避難訓練は年6回以上、様々な想定の下に実施されており、近所の住民から避難誘導の際の協力を得られる関係性となっている。別棟は福祉避難所ともなっており、備蓄食糧等も確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々それぞれの思いや行動を受け、それを否定せず寄り添って見守るよう努めている。まれに会話が弾み言葉が乱れてしまうとき等は職員間で注意しあい尊厳を傷つけないよう対応している。	利用者の尊厳を大切に、何事も否定しない介護を心掛けている。プライバシー確保や羞恥心等に配慮し、トイレや入浴などの際にはお互いが不快な思いをしないよう、ドアの開閉など利用者の動きを見守りプライバシーの確保に努めている。特に入浴介助の際には、周囲から着替えが見えないようにし、失禁等の際には、周りから気づかれぬよう、そっと居室に誘導して着替えするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話や行動の中から、本人の意向をくみ取り、また聞き逃さないようにしながら、自己決定ができる様な雰囲気作りや時間を設けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、その時の本人の気持ちを尊重し安心して過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度、訪問理美容を利用しヘアカットや人によってはカラーリングを行っている。また外出の際には本人志向にあった服装ができる様支援している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム まぶる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者と一緒に食事の準備・片付けを行っている。またメニューには旬のものを取り入れたり、嗜好にも気を付け食欲が増すよう支援している。	朝食と夕食のおかずは外注とし、昼食は職員が調理して提供しており、利用者の好みも反映した献立としている。ホームの畑が周囲にあり、利用者は様子を見に出かけたり、野菜の皮むきや食器拭きなどを手伝っている。利用者は「寿司」の希望が多く、時々寿司の出前を提供している。秋には味覚祭を開催し、ホタテ焼きなどの好みの食材を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量には記録にも記入しながら、細目に摂取を促している。状態に合わせた食事形態も工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせた口腔ケアを行い、食物残渣で口腔内が不衛生にならない様注意している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を取り排泄のリズム・パターンを把握し定期的に交換や排泄促しをしている。意思疎通が困難な方には排泄量を確認しながら次回の排泄介助の時間を工夫している。	4人が布パンツで自立し、他はリハビリパンツやオムツの使用となっている。また、夜間は念のためにポータブルトイレを7人が使用している。排泄チェック表をもとにして適時の声掛けと誘導を行っており、在宅時に比較して排泄の状況が改善している方が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に気をつけながら、毎朝牛乳・ヨーグルトを提供したり、野菜を多くメニューに取り入れ、便秘予防に取り組んでいる。又、毎日体操をし体を動かす機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人に合わせた入浴方法を工夫し介助している。2、3日に1度のペースで入れるように予定を組んでいる。	入浴は3日に1回のペースを基本としている。一般浴槽を使用しているが、介護度5の方でも同じ浴槽で回転いすを使用して介助している。入浴を嫌がる方もいるが、介助者や入浴日を変えたり工夫をして対応している。職員と1対1となり、利用者の本音が期待される大切な時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事時間や入浴時間は定めているが、それ以外は各々が自由に居室、ホールを自由に行き来出来るように静かな環境、居室の室温等に気を付けている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム まぶる

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がそれぞれ入所者の服薬状況を把握し、薬画像シートを用いながら間違いがないよう、日勤、早番と確認している。また確実に服薬したか口に入れ服用するまで確認するよう徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々食事準備・片付け・軽作業等の役割を持ち装飾作り・裁縫も行い気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍もあり個人的に買い物に行くことは控えているがドライブを定期的実施し、車からは降りないにしても、季節に合わせて花や紅葉等を見に行っている。	コロナ禍の影響で外出支援が困難になっているが、ミニドライブは継続しており、山田町周辺でのお花見や紅葉見物に出かけ、利用者はジェラートを食べたりして楽しんでいる。また、外気浴を兼ねて、敷地内を散歩したり、畑の様子を見に出かけたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所者の中には悪寒を所持している方もあるが、施設・家族にも了承を得ている。お金を所持している入所者は定期的と一緒に残金を確認し紛失しないように気を付けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話可能としている。その際には始め職員が電話し事情を説明した後、取り次ぐことにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビを2台設置し、それぞれの嗜好に合わせた番組を流し好きな方を見られるようにしている。また外を見たい入所者や空調を嫌う方も居るため、それぞれが好む席に座ってもらうよう考慮している。	ホール内には対面のキッチンと、テーブルが2つ置かれ、利用者はコタツとセットになったソファで寛いでいる。室温等はエアコンや加湿器で快適に管理されており、壁面には利用者の塗り絵作品や季節を感じさせる紅葉等の装飾がなされている。利用者はホールで体操やゲーム、折り紙などを楽しんでいる。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム まぶる

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファ席と自由に好きな場所に座れるように対応している。入所者同士折り合いが合わない方々も居るためトラブルにならないように気を付けて対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際に、それまで自分が愛用していたものや、家族の写真を持ってきてもらいそれを自室に置くことで、落ち着ける空間作りをしている。また人によっては仏壇を置き毎朝手を合わせる事を習慣にして継続している。	居室にはエアコンやベッド、クローゼット、タンスが備付けられ、利用者はテレビや衣装ケース、家族写真、仏壇などを持ち込み、自分の作品や孫が書いた絵などを壁に飾り、居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口等に、わかりやすいように表示している。廊下等照明に気を付け安全に生活している。		